



学ぶ意欲を高めるために...



学力向上のための授業改善その① - 全国学力・学習状況調査結果を踏まえて -

子どもの学力は、短期間で目に見えて伸びていく力だけでなく、小学校6年間・中学校3年間、あるいは義務教育9年間を通して、積み上げられて伸びていくものです。子どもたちに必要な力を各学校で確認しあい、改めて「めざす授業像」について共通認識を持ち、授業研究を進めていくことが大切ではないでしょうか。教育センターでは、今回の特別号で、学力調査結果の吹田市の結果を踏まえた授業改善の方向性や取組例について、紹介いたします。

吹田市の子どもの課題

概ね良好な結果でしたが、このような課題があることがわかりました。

- ① 学習意欲
- ② 自分の考えを表現する力
国語: 与えられた条件に沿って、自分の考えをまとめて書くこと
算数・数学: 筋道を立てて考えることや問題解決の方法を数学的な表現を使って説明すること
- ③ 学力高位層と学力低位層の差が大きい。無回答率が高い。
- ④ 毎日朝食をとる、学習の準備ができている児童・生徒、学校のきまりを守る生徒の正答率が高い。
- ⑤ 宿題は真面目にするが、家で自分で計画を立てて勉強することが少ない。(→家庭学習習慣の確立)

- 3つの課題
- 1 学ぶ意欲の向上
 - 2 言語力の育成
 - 3 自学自習力の育成

この2つに重点をおいて紹介します。

授業改善の方向性

教育センターでは、昨年度下記のA~Cの視点で授業を見つける視点を紹介してきました。今回は、上記の吹田市の子どもの課題を踏まえ、さらにDの視点を加え、Bの「学習意欲」とDの部分に中心をおいて紹介いたします。

- A 学校としての授業研究を活性化
- B 学習意欲を高め、どの子にもわかる授業
- C 学習環境を整え、一人ひとりのニーズに応じた授業
- D 自分で考え、表現する力を高める授業 (言語活動の充実)

- ① 学ぶ楽しさを実感できる授業
- ア 導入の工夫
 - イ 新しい発見のある授業
 - ウ 少し難しい課題にチャレンジさせる授業

えっ! 本当かな? やってみたい!

〇〇ができるために、今日は△△をがんばろう

なるほど!

できるかな? ちょっと難しそう! でも、やってみたいな!

- ② 子ども自身が学びの実感を感じることでできる授業
- ア 学習のめあての提示
 - イ 毎時間の子ども自身の振り返り
 - ウ 毎時間の教師の評価
 - エ 学習指導計画の提示

今日は、こんなことができたようになった!

※具体的事例は、
教育センターだより特別号第2号(平成20年度発行)
特別号第4号(平成21年度発行)

今年度 校内LANが整備されます!



- ③ ICT機器を活用したわかりやすい授業
- ア 書画カメラ・デジタルカメラを活用した授業 (教科書のさし絵の提示・子どものノートの拡大提示など)
 - イ 普通教室でパソコンを活用した授業 (学習コンテンツの利用・インターネットの利用)
 - ウ 電子黒板を活用した授業 (映像・図形・音声 ※子ども自身が操作する)

※具体的事例は、
平成22年1月19日実施中学校3年理科「地球と宇宙」指導案
平成22年2月4日実施小学校3年社会「むかしのくらしのようす」指導案
知恵の泉からダウンロードできます。
平成21年度教育センター研究紀要(平成22年4月発行予定)

「楽しそうに活動していましたね」で終わることなく、子どもが課題を達成できたのかの見取りを!

- ④ 毎時間、その1時間の学びを子どもも教師も確かめる場のある授業
- ア 毎時間授業の最後に確認問題を実施
 - イ 「今日の学び」を毎時間ノートに3行程度で書く(教科日記)

「活動あって学びなし」にならないように!

既に発行している教育センターだよりの特別号第1~4号は、教育センターのホームページや知恵の泉からダウンロードできます。

「休み時間からの気持ちを切り替える」意味でも、授業の始まりの5分間の基礎基本の習熟学習は効果的です。

- ⑤ 毎時間、授業の始まりの5分間を反復学習等基礎基本の定着の時間として確保する
- ア 授業の始まり5分間を活用した反復学習
 - イ 朝の時間の学習を活用した個別課題の習熟プリントの実施

具体的事例
☆ フラッシュカード (漢字・計算・英単語・ことわざ・都道府県・ローマ字・慣用句...)
☆ 音読・早口言葉・口の体操・詩や古典の暗唱
☆ 体力を高める運動
☆ 百マス計算等計算プリント
☆ 漢字5問テスト

- ⑥ どの子にもわかる配慮をされた授業
授業のユニバーサルデザインを考えた授業

具体的事例は、
◆ 教育センターだより特別号第2号(平成20年度発行) 特別号第4号(平成21年12月発行)
◆ 授業ルール282項目・ユニバーサルデザインを考えた授業の指導案等は、知恵の泉からダウンロードできます。

言語力育成のために・・・①

新学習指導要領では、すべての教科・領域で「言語活動の充実」を図ることが示されています。

★ 参考事例の☆印は、国立教育政策研究所発行(平成21年8月)『全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校における取組事例集』のページを示しています。

※1 「よくおこなった」(全国16.5% 吹田市11.1%)
 ※2 「よくおこなった」「どちらかといえばおこなった」の合計(全国41.7% 吹田市27.5%)

言語力育成のためには、まず、「自分で考え、表現する力を高めること」が必要です。

次の4つの視点からの授業・取組を紹介します。

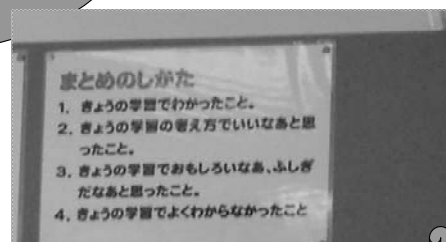
- ①自分の考えを伝え、交流する場のある授業
- ②子ども自らノートを工夫して書く場のある授業
- ③習得した力を活用する場・自分の考えを深める場のある授業
- ④ことばの力を高める言語環境の充実

中学校では、自分の考えを伝える授業はむずかしい?!

中学校の国語の授業についての調査結果から、「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行いましたか」(※1)「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりする授業を行いましたか」(※2)の実施率が全国値より低いということがわかりました。国語科に限らず、「子どもが自分で考え、意見を交流しながら深める授業」はどの教科でも大切です。しかし、中学校の指導内容・学習集団・テスト評価などを考えるとそのような授業は難しいという声をよく聞きます。

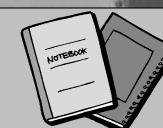
- 「子どもたちに必要な力は何でしょうか？」
 その(計算)問題を解くことだけではなく、「その意味を理解すること」ではないでしょうか。必要な力を確実に身につけることのできるための授業を考えていきたいですね。
- テスト問題を考え直してみませんか？
 何の力を見取るためのテストなのかをもう一度考えてみませんか。そうすることで、授業を思い切って変えていくことができるのではないのでしょうか。

新教育課程では、小・中学校の各教科の教科書にも子どもたちが説明をするような場面等が取り入れられるようです。



②ノート指導の工夫 □ 工夫して書く場のある授業

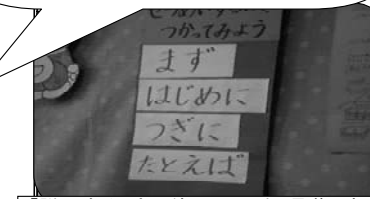
- ア 板書を写すにとどまらない、創意工夫のできるノート指導
- イ 字数を指定して、自分の考えや要約を書くことを継続して取り組む



具体的には、どんなポイントで指導すればよいのでしょうか？

- ◆計算の式・答えだけでなく、考えたこと・思ったことなど「**考えの過程**」が残るように書く。
- ◆自分の考えと他の考えと比較しながら書く。
 ※友達の見解を聞いて、色ペンで印をつけながら、整理する
- ◆**考えのつながり**を表す言葉を積極的に活用するよう指導
 (例:まず、次に、例えば、だったら、もしも、だって・・・)
- ◆教科日記の継続(今日の学習のまとめを自分の言葉で書く)
 ※観点を示す(よくわかったこと・大切だと思ったこと・参考になった友達の見解・よくわからなかったこと)
- ◆今日のまとめを100字程度で書く。
 (文字数を意識する習慣をつける)
- ◆ノート展示会の実施「わたしの宝物」(学級・学年)
- ◆子どもの工夫したノートを書画カメラで写して紹介

このような言葉を、教室に掲示しておく子どもたちは意識してことばを使えるようになり、思考が深まります。



単なる感想でなく、観点を決めて書くことが「学び」を意識することにもつながります。

書画カメラを活用すると、発表ボード等に書かなくても子どもたちの考えをノートのままで紹介できるので、時間短縮にもつながり、また、子どもたちへのノートの書き方の指導にも役立ちます。

その②へ
 続く

①自分の考えを伝え、交流する場のある授業

- ア 伝え合いの場を通じた指導
- イ 45分(50分)の中で学習形態を工夫 (一人・ペア・グループ・全体)
- ウ 問題解決的な場面を大切に学習

伝えたい!
 伝えて良かった!
 うまく伝えられた!
 この実感が大切

鑑賞の学習では、みんなの気づきを出し合うことで、一人では考えつかなかったような発見も生まれ、深まっていく実感を感じることができます。

□ 「話す・聞く能力を育む実践例」(☆P45~)

- ◆話す場の設定を工夫する
 伝えたいことがある場
 伝える相手ははっきりしている
 伝えるための手段が工夫できる場
 伝え合う楽しさが生まれる場
- ◆話し方のモデル(ビデオ教材)や話型を示す。
 ※学校紹介ビデオを作成する

「話し方」を指導することも必要です。

□ 言語活動の充実を各教科で

- ◆音楽:鑑賞指導
 同じ曲を歌手による表現のしかたを聞きくらべて感想をまとめる
 曲紹介のアナウンスを考える
- ◆美術:対話型鑑賞
 作品を観て、一人ひとりが「見つけたこと」「感じたこと」・「考えたこと」を出し合い、それをクラスで重ね合わせながら観賞する。
- ◆社会(☆P74)
 「なぜ?」という追求可能な学習課題を設定し、考える場を作る
 自分の考えを主張する場面を積極的に設定する。
 ※各教科の展開部分に「話し合い活動」を位置づけた指導案作成による授業研究を推進する。(☆P66)
 ※全教科を通じて、自分の考えを主張する場面を作る

友達の考えたことを他の子どもが、自分なりの表現で、説明する活動も効果的です。

※ 実践事例(数学 1年「資料の活用」)
 -既習事項を活用して説得ある説明をする力を育む-
 山田東中学校2月16日実施の指導案
 知恵の泉からダウンロードできます。
 (平成21年度研究紀要にも掲載予定です)

※ 具体的実践事例(小・中学校国語科)

「一人ひとりが自分の意見を持ち、グループ交流を通してさらに、自分の考えを深めていく授業例」

<交流活動の進め方例>

- ①一人で考える(色別付箋紙を活用)
- ②グループで考える
 (一人ずつ付箋紙を貼りながら意見交流)
- ③グループの意見をまとめて、発表ボードに書く。
- ④グループからの発表を聞く
- ⑤もう一度、自分の考えを書く。
 (グループ交流によって各自の考えが深まったことを振り返る)

このような進め方をベースにして実践した2つの事例「同じテーマでの2つの対立する意見(新聞投書)に対する自分の考えを深める学習」(小5・6・中1)「物語(素顔同盟)の続きを考える」(中3)
 (平成20年度教育センター研究紀要 国語力向上研究グループ)※知恵の泉からもダウンロードできます。



学力向上のための授業改善 その②

—全国学力・学習状況調査結果を踏まえて—

言語力育成のために・・・②

③ 習得した力を活用する場のある授業・自分の考えを深める場のある授業(例:国語科)

学んだ知識を活用するとは?

例えば、「新しい教材に出会ったときに、それまでに獲得した『読む力』を駆使して、自分の力で読み進めることです。そのためには、書いてある内容の理解だけにとどまらず、「どのように書かれているのか」「どのように読むと内容理解ができるのか」など『読み方』を学習することが必要です。そこで習得した『読み方』を活用して、他の教材や次の教材を読む学習につなげていく単元構成が有効です。

また、説明文の書き方を学び、筆者の書き方や表現の工夫をまねて、自分の主張を書くことにつなげることです。

□書いてある内容を抜きだして答えるにとどまらず、文章全体の中で関連付けたり、文章の組み立て等について考えることのできる授業

- ◆ 1単元1教材ではなく、複数教材を活用しながら読み進める授業(例:中核教材で学習した「読み」の力を補助教材で活用する)
 - ◆ 場面ごとではなく、場面のつながり・関係に着目させる授業
 - ◆ 表現者の側に立って、教材を見つめる視点をもった授業
 - ◆ 読み取ったことを「書く」ことにつなげる授業
- (※具体的事例は、大阪府教育委員会学習指導ツール開発モデル授業の指導案・ビデオ配信)



※文学教材では・・・

物語の仕組みを読む力を活用して、新しい教材を自分の力で読み解く力がつく授業

- 例:場面を比べて読む力
お手紙⇒ちいちゃんのかげおくり
- 例:キーワードに着目して読む力
白いぼうし ⇒ 一つの花
- 例:情景描写に着目して読む力
ごんぎつね⇒ 大造じいさんとガン

2年生の「お手紙」で、『場面をくらべることで登場人物の気持の変化をとらえるという読みの力』を学習し、3年生の「ちいちゃんのかげおくり」でも『場面を比べる』力を利用して読みの学習を進めることができます。
◇2年生の学習が3年生の学習につながります。

※説明文教材では・・・

- ◇内容読解にとどまらず、文の組み立て・表現の仕組み・筆者の工夫を読み解く授業
- ◇説明文教材で学習した『説明の型や言葉』を活用して書くこと(自己表現活動)にまで高める授業
- ◇複数教材を読み、筆者の表現のしかたや書きぶりに対して、共通点を見出したり、評価し、自分の意見を書く授業。(クリティカルリーディングの力をつける)
- ◇多様なテキスト(非連続テキスト教材を含む)を比べ読みし、説明するためのその効果を考える授業
- ◇説明するための挿絵やグラフなどの効果について考え、自分の意見を持つ授業

4年生の説明文「アップとルーズで伝えよう」で、説明を分かりやすくするための写真の効果について学習した力を活用し、6年生「平和のとりでを築く」で、説明を効果的に伝える写真の選び方(「アップ・ルーズいずれがよいか」「何故筆者はこの写真を選んだのか」)について、自分の意見を書く学習をすることができます。

※ テキストを比べて読み、書くことにつなげる授業 (中学校)

- 1 複数の広告を読み、それぞれの広告のねらいをつかみ、自分でまとめる。
- 2 作者の異なる同じモチーフの俳句を読み、俳句の内容・両者の句の詠み方の特徴をまとめる
- 3 同じ作者の作品を比べ読みしテーマを考える
例:芥川龍之介:杜子春と蜘蛛の糸・・・

作者について調べ学習をするなどして、背景等を学習した後、同じ作者の作品を複数読み、作品に共通するテーマを考えながら読むこと・そして自分の考えたテーマについて友だちと交流を通して読み深める学習



④ことばの力を高めるための言語環境の充実

- ア 校内掲示板の活用・学級掲示の工夫
- イ 系統性をもった学校全体での指導内容の共有化



□掲示物の工夫

- ◆ 季節の言葉・詩・俳句(クイズ)を掲示板上に
- ◆ 感想を伝える時に使う言葉を集めて教室に
※「おもしろかった」だけでない豊かな言葉を学ぶ
- ◆ 説明するときに使う言葉を学習した後教室に
(例:はじめに・このように・そのために・そのわけは・・・)
- ◆ 意見の言い方・発表の仕方の基本
※発達段階に応じて工夫して、学校として基本を

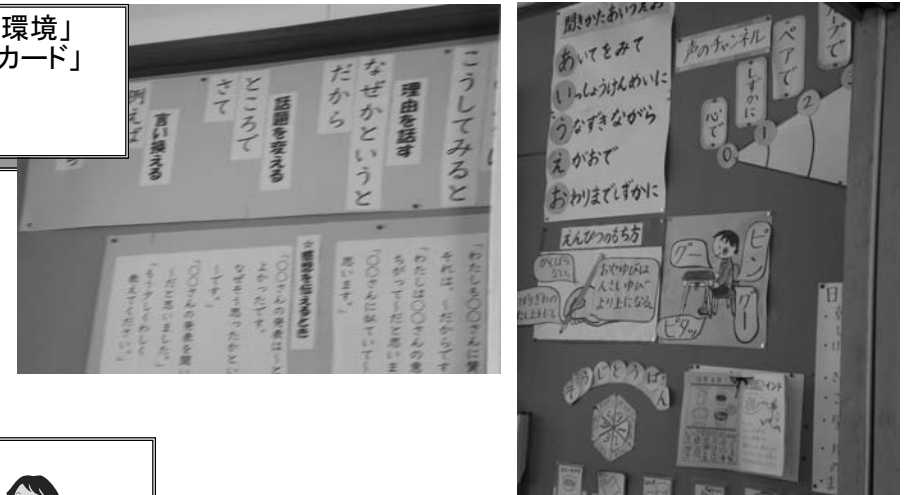
※具体例

- ☆話し方・聞き方
- ☆意見の言い方
- ☆話し合いの進め方
- ☆つなぎことば
 - ・順序よく話す
(最初に まず 次に 最後に)
 - ・まとめるとき(このように こうしてみると)
 - ・話題をかえるとき(さて ところで)
 - ・理由を話す(だから なぜかという)
 - ・言い換える(つまり たとえば すなわち)

□「お助けカード」(話し方マニュアル)・「読書環境」

- ◆ 役割や状況に応じて話すための「お助けカード」
(例:司会・スピーチ・インタビュー・発表)
- ◆ 読書環境(図書室・教室)

言語環境としては、「教師の話す言葉」の力も大きいですね。場に応じた正しい言葉・あったかい言葉を使うように心がけたいですね。



参考事例の☆印は、国立教育政策研究所発行(平成21年8月)『全国学力・学習状況調査において特徴ある結果を示した学校における取組事例集』のページを示しています。この資料は、「知恵の泉」にも入れていますので、知恵の泉からもダウンロードできます。

これらは、すべて「新教育課程のめざす子ども主体の授業像」に他なりません。今まで大切にしてきたことを、もう一度見直し、少し足りない部分をさらに改善していくとよいのではないのでしょうか。また、ここで紹介した授業改善の方法は、ごく一部であり、全てではありません。学校で取り組まれる場合のヒントとして参考にしていただければ幸いです。





校内授業研究をすすめるために



学習状況調査の結果からは、「授業研究を伴った研修会の開催回数」について、小学校では、年間5回以上実施している学校が95%を占めていますが、中学校では年間5回以上実施している学校は、まだ17%にとどまっています。授業改善をすすめるためには、まず、公開授業を通じた授業研究会を実施し、研究会の内容の充実が求められます。

小・中学校ともに、研究授業のための授業研究会にとどまらず、年間継続した研究会を持ち、研究授業の提案が、日常の授業改善につながるような、校内授業研究の方法を考えていくことも大切ではないでしょうか？

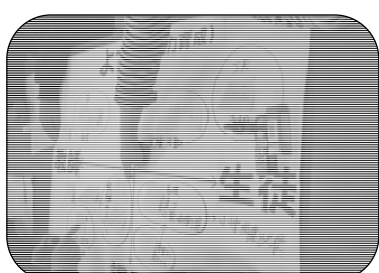
- ◆ 教科・校種を超えた授業研究会をすすめるために
- ◆ 研究協議が深まり、年間つながった授業研究会を継続して実施できるために
- ◆ 参加者一人ひとりにとって学びのある研究会にするために

次のような方法が考えられます。

- ①めざす授業像の共有化をはかり、授業を見る観点をはっきりさせる。
- ②参加者意識を高めるためには、ワークショップ形式の研究会が有効。
- ③事前研究会を授業者だけでなく、協働して行う。
- ④各回の研究会で確認した成果や課題をその都度まとめ、次回の研究会に活用。
- ⑤研究協議を深めていくためには、ビデオ録画による振り返りを通して、子どもの姿(事実)に基づき、「子どもの学び」に焦点をあてて協議する授業研究会が有効

中学校でも、指導案検討を授業者だけでなく、教科を越えて事前に検討をしてみてもいいでしょうか？多角的に授業案を考えることができ、また協働で検討したことで、授業研究会で意見交流を活発に行うことができます。

「授業を見る観点」を「一人一人が自分の考えを持つことができたか」「自分の考えを交流によって深めることができたか」等におくことで、教科の壁を越えた研究協議を深めることができます。



具体的事例は

教育センターだより特別号第3号(平成20年度発行)
平成21年度教育センター研究紀要(平成22年4月発行予定)

ワークショップ型研究会

【基本的な進め方例】

- 1 流れ・観点・めあての確認
- 2 授業者から(提案のポイント)
- 3 「授業を見る観点」にそって、各自が付箋紙に気づきを記入
- 4 付箋紙をもとにグループ交流(よさ・課題・課題に対する改善策)
- 5 グループ報告
- 6 全体協議(よさを整理・課題について改善策)
- 7 助言
- 8 今日の学び(参加者から一言)

【ワークショップ形式の授業研究会の良さ】

- 1 参加者が主体的に参加できる
- 2 幅広く授業についての意見がだせる
- 3 いろいろな立場の方が意見を言いやすい
- 4 継続することで、参加者の授業を見る視点が育つ
- 5 参加者にとっても学びを意識できる

しかし、「意見が拡散で終わってしまいがちになる」「全体で深めることがむずかしい」という課題もあります。その課題を克服するためには次の方法が有効ではないでしょうか？

- 1 グループ報告で課題を整理した後、全体会で深める
- 2 最初に、参加者に研究会の進め方・めあてを示し、共有化する(見通しの共通認識)
- 3 研究会の最後に参加者一人ひとりが自分の学びを振り返る時間を持つ(学びの実感)

ビデオを活用した子どもの学びの姿に焦点をあてた授業研究会

- 1 子どもと教師を2台のカメラで撮影し、研究会で同時に2画面で映写しながら、必要な箇所をビデオを止めながら協議する方法
- 2 授業を見る観点に沿って、複数の小型カメラで子どもの学びの様子を中心に撮影し、撮影者が提案したいポイントを選び研究会で提案するという方法



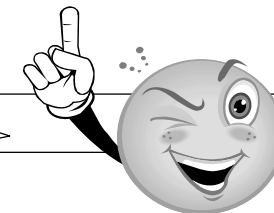
2の具体的方法とポイントを紹介します。

【進め方】 基本的進め方は上記「ワークショップ方式」と同じですが、グループ協議に入る前あるいは、グループ協議の場で、ビデオを撮影した人が、提案したい場面を紹介し、協議します。あるいは、参加者から協議で出てきた課題等ポイント場面をビデオで確認しながら協議します。

「あ〜しんどかった！」という授業研究会でなく、「研究授業をして良かった！」「授業研究会っておもしろいやん」という声が聞こえるような学校が元気になる授業研究会にしていきたいですね！

【ポイント】

- ◇撮影は、伝えたい場面がすぐ分かるように1~2分程度のコマで撮影する。
- ◇撮影した映像の見出しが出るカメラが使いやすい。
- ◇グループ活動場面では、グループごとに担当を決め、子どもの様子を記録する。



今回の特別号V-①②で紹介した事例等について、もう少し知りたい等のご希望がありましたら、教育センターまでお問い合わせください。皆さんと一緒に授業改善について考えていきたいと思ひます。